

東京 IPO 特別コラム

2019年4月1日 Vol.144

新元号が「令和」に決定し春相場に期待高まる

本日、248番目に当たる新元号が「令和（れいわ）」に決定。平成時代が今月で終わりを告げ新元号の時代が5月1日から始まることになる。明治、大正、昭和、平成に続く新時代がどのような時代となるのか多くの国民の関心が高まる中で日経平均は発表直前に21682円の高値をつけるなど、株式市場は歓迎ムードでこの発表を迎えることとなった。

新元号は万葉集からの出典とされ、命名された意味については、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ意味が込められているとのこと。安倍首相は集まった記者の前で希望に満ち溢れた新しい時代を切り拓いていきたいと語ったそう。伝統とともに新たなものへ挑戦するこれからの日本が令和時代でどこまで明るく伸び伸びとした社会、経済を構築できるのか大いに関心寄せられる。

株式市場では既に新元号特需に期待した買いが見られ、とりわけ昨年IPOのハンコヤドットコムを展開するAmidAホールディングス（7671）が上場来の高値を更新し続けているほか、帳票を手掛ける光ビジネスフォーム（3948）が直近になって人気化するなど、ホットマネーが市場を駆け巡っている。

新元号制定の有識者懇にはノーベル賞を受賞したiPS細胞研究の第一人者、山中伸弥京都大学教授も名を連ね、決定後に自らの立場にオーバーラップさせ新しいものにチャレンジする日本の姿に新元号がぴったりだとコメント。一時の特需を有望視するだけではなく、様々な技術開発で成長分野に挑戦する企業への投資を新時代で推進する潮流が高まるのであれば株式相場の迫力は一段と増すに違いない。

さて、新元号の発表で新時代への期待高まる株式相場に4月は3日の東名（4439・公開価格3290円）、8日ヴィッツ（4440・同2650円）、24日ハウテレビジョン（7064）、25日トピラスシステムズ（4441）、グッドスピード（7676）と5つの銘柄がマザーズ市場にIPOを予定しており、新元号相場に彩りを添えることになる。これで2019年2-4月のIPO銘柄数は26となるが5月は例年通りIPOが出て来ないと見られるためIPO後の需給はタイトになる可能性がある。

3日の東名は光通信の出身者が経営するNTT光回線の代理店業務をコアに積極的な事業展開を計画しており、上場前説明会で四半期利益が急拡大していることを説明。同社の事業は光通信やレカムなどと同様に中小企業向けの回線提供サービスがコアでその事業で得てきた10万の顧客基盤をベースに保険や情報機器、照明器具、電力小売りといった事業を展開していこうと計画している。つまりミニ光通信とも言うべき存在で、営業系の企業との印象が強く、上場後にさほどプレミアムが付きにくいと考えられる反面、2015年のストック型へのビジネスモデル変更で一時的赤字期間を経て足下の業績が急速に向上している点に注目が集まると見られる。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）